

両袖机と電話台

4 成果及び結果

主要材は県産みづめ上質乾燥材を使用

特にこの試作品には無垢板削合せとし接合部面貼縁貼り組立等の接着部は凡て膠（3,000本）を使用釘は使用せず裏板は木捻子締めとして書斎兼応接室用の高級セットとして試作したものである。

漸次高級化に向ひつつある当地生産者の中にあつては膠の使用を余り好まない傾向にあるその原因は従来和タンス類の生産が多く従つて寒梅粉等の澱粉質系接着剤による釘打工作法が専ら行われ他の少数の鏡台唐木細工、純粹洋家具等釘を使用しない製品のみ膠が使用されて来たが現在新しい化学接着剤が研究市販され盛にPRされ使用法も比較的簡単に使用出来る点から生産者の殆どが膠は古い時代の最も幼稚な接着剤と勘違いされているのが実情であるよつてこの研究試作の結果を通して改めて膠による接着技法がこれからの高級品生産に最も適していることを実証したものである。たゞし接着技術が未熟なときは接着力は非常に落ちる反面生産能率も低下し膠の溶解法と接着技は最も大切な条件であり熟練を要すものであるが一度修練したものなら又これ程便利で強力な木工用接着剤は現外に類がないことが立証され試作品は本試作品展に出品高級品として高く評価され即売された、納入後6ヶ月目に調査を行った結果全品一ヶ所の狂も認めなかつた。

照 明 器 具 の 研 究

研究員 大 西 洋

研究の目的

伝統的な編組技術を生かし付加価値ある竹製品即ちランプシェードを研究し業界への普及を図る。

概 要

県内の竹製品業界はビニール製品に押され目下衰微の状態である。この技術を充分に生かすべく今迄研究調査して来たのであるがハンドワークとしてはランプシェードの加飾をすることが最も適当と考え今回この研究と試作にとりかゝつたのである。

(1) 調査事項

テパート 器具店

(イ) 良く売れている型 価 格

(㊦) 好まれる光の色 好まれる型

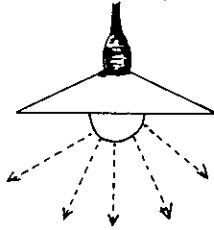
(㊧) 生産しやすい型

等を調査した結果により次のような編組を加飾した研究試作をした。

照明方式について

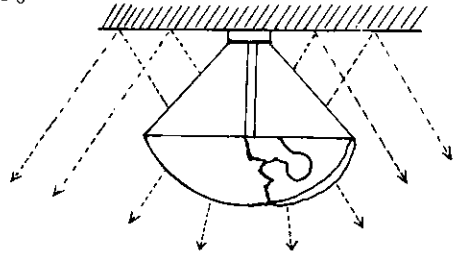
(イ) 直接照明

光源から直接光による照明で日本住宅の場合まだこの照明方法が多く利用されている。



(ロ) 間接照明

光源を不透明物により遮蔽し天井や壁などにより反射した光を利用する方法でこの場合は直接照明に比較して光線は和ぐが明るさは半減する。



照明器具の種類

(イ) ペンダント

天井などから吊るして用いる照明で住宅照明として最も多く利用されている。ペンダントはコードで吊るすもの、鎖を使ったもののほか壁に金具を取付けて吊るすものなどがある。

(ロ) ブラケット

壁に照明を固定させたもので局部照明として使用する場合と家内装飾的に用いる場合も多く見られる。

(㊦) スタンド

机、テーブルなどに使用するものと床におくフロアスタンドがある。デスクスタンドは局部的に強い照明度を必要とする時に多く使用するが、テーブルスタンド、フロアスタンドの多くは室内装飾の場合が多い。

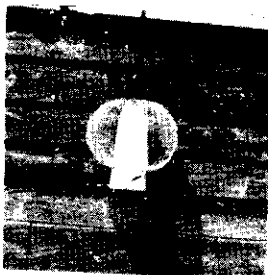
(2) 研究と試作

竹ひごを利用した吊り照明具の試作を行い編組法としては平編系統を利用した。

細ひご透し差し

これは円錐形のグローブに細ひごを使用した円形のシェードで光源から細ひごをおしての光線が優雅である。間接照明として光線が明るい。

竹細丸ひご径5 1.5%
家庭食堂 茶の間に向きである。



斜目四ツ目編み

これは細四ツ目に四段おきに細帯を入れたもので細穴からの光模様を写し出したものである。

竹ひご巾 2.5%

グローブ 100×

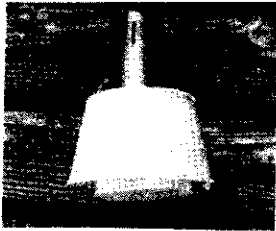
90×290



ごさ編み

竹ひご巾 4%
 梯形グローブに密着させず上部の金止具を利用してグローブと離して編込んだもので照明部面が広い
 グローブ

90×120×150



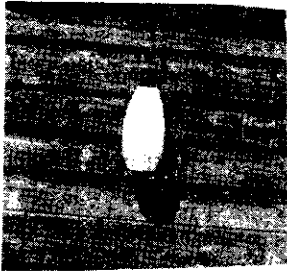
藤編み

白色グローブに白藤を使用したのは装飾的にはあまり効果がなかったが間接照明としては他のシェードに比して明るい光度である。

割藤巾 3%

使用場所は居間

グローブ 80×90×120

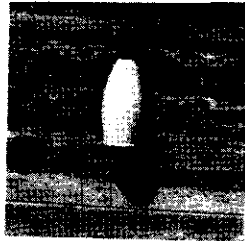


ゴザ編み (包含)

徳利型のグローブをごさで包み込み下部だけの照明に使用し上下の縁は藤巻きとした。

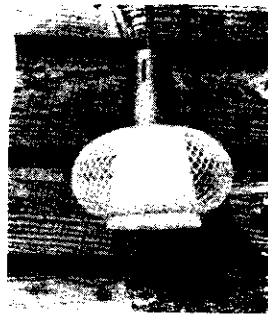
竹ひご巾 2.5%

主にショーウインドの商品の照明やクラブ ホームバーに使用されている。



四ツ目編み

細ひごを使用し、上部から下部まで四ツ目ですつぱりと包み勾配に応じて編み目を合わせたもので編み目斜線ははっきり出ている。玄関などの装飾照明に使用される。



籠目編み (六ツ目)

胴張りのグローブに六角模様を編み籠目の素朴な線を現わし編み目を大きくして柔かい光線を感じ受けるのが特徴である。

竹ひご巾 2.5%

使用する場所 家庭の玄関向きとした。

グローブ 170×190



竹を利用した照明具はすべてがシェード部分に使用されている。その方法としては編組が大部分を占めているが、そのほかは細丸ひごを利用してその線の美しさを見せたものもある。

成 果

以上 研究の結果、吊り照明具については次のような結論を得た。

1. 適当な明るさがあり適度に光の拡がりがある事。

2. 光色か適当であること。
3. 眼にまぶしさを感じさせない。
4. 重量が吊り面に応じた規格である事。
5. 人間の趣味に応じたものである事。

などであり今後も継続して照明具について研究、試作を実施し業界への普及を図る。